

## 6. 複合ハビタット

生物群別のハビタットで生息地が重複する区域を、複合ハビタットとして記載する。

### (1) 複合ハビタットの概要

複合ハビタットでは、陸域の動物で、生物群は異なるものの、生息地が重複する区域を選定している。

大瀬洞は、哺乳類ではユビナガコウモリ、昆虫類ではドウクツケムシガムシなどとの複合ハビタットである。ここはユビナガコウモリが多く確認される全国的にも有数の洞窟であり、それらの糞がつもったグアノにドウクツケムシガムシが依存するなど、特殊な立地に特殊な種が生息しているハビタットである。

内大臣溪谷は九州中央山地の一角に位置し、カワネズミやクロホオヒゲコウモリなどの哺乳類とゴイシツバメシジミなどの昆虫類との複合ハビタットである。ここは特別天然記念物であるニホンカモシカの個体群が安定的に生存している区域としては県内最大であったが、ニホンジカ増加による下層植生衰退の影響を受けて密度減少と生息域分散化が顕著になっている。また、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律により国内希少野生動植物種（種の保存法）に指定されているゴイシツバメシジミも生息している。

市房山は、ホシガラスやキバシリなど標高の高い山域に生息する鳥類とゴイシツバメシジミなどの昆虫類との複合ハビタットである。ここではゴイシツバメシジミの監視が行われている。ニホンジカ食害による林床の乾燥化は、下層植生の衰退と、高木層の枯死をもたらし、生息環境の悪化をもたらしている。

### (2) ハビタットの解説

大瀬洞など3ヶ所について、以下で解説する。

# 1 大瀬洞

球磨郡球磨村

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

## 【保護対象種】

哺乳類：ユビナガコウモリ (NT)

昆虫類：ドウクツケシガムシ (CR)

## 【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

C 熊本県固有種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼池・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

G 模式標本となっている個体の産地など、学術上重要なハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

## 【概要】

洞穴開口部の真下は球磨川で、水量の多い季節は鍾乳洞からの水が球磨川に注いでいる。周辺は山林で占められ、二次林とスギなどの人工林がモザイク状に分布している。内部は広いホールとなっている。洞内入り口付近には縄文期早期の住居跡と遺物が発掘されている。また、コウモリの糞が積もったグアノと呼ばれる土にはチビコブスジコガネ、未記載種と思われるエンマムシの一種、大瀬洞固有種であるドウクツケシガムシなどが依存している。また、熊本県固有種であるクマツヤムネハネカクシ、未記載種と思われるメクラチビゴミムシの一種、ホラアナナガゴミムシの一種、真洞窟性ハネカクシの一種も確認されている。厳冬期には大瀬洞の入り口付近の石下を越冬場所としているオガタカネコメツキがいるなど、多様な昆虫類の重要な生息場所にもなっている。なお、オオセリユウガヤスデの模式産地でもあり、多様性に富んだ重要なハビタットである。

## 【現状】

洞窟性コウモリ、特にユビナガコウモリにとって非常に重要なハビタットである。夏期の活動期における利用は約 7,000 頭、冬期には約 25,000 頭が冬眠に利用していた。これだけの個体群が利用している洞窟は全国でも少数である。しかし、2010 年代に入り、冬眠個体数が若干減少し、近年は約 10,000～15,000 頭である。この要因は不明であるが、今後の動向に注意を払う必要がある。大瀬洞の固有種であるドウクツケシガムシは 2003 年以降、新種と思われるエンマムシの一種も 2004 年以降個体数が激減して全く確認できない年が続いたが、2017 年の調査では、両種共に比較的多くの個体数を確認することができた。しかし、生息状況は安定しておらず、継続的に注意を払う必要がある。また、近年、各地の洞窟で洞窟生物を商業目的で採集する行為が頻発しており、本洞窟もその心配がある。

## 2 内大臣溪谷

上益城郡山都町

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

### 【保護対象種】

哺乳類：(CR) クロホオヒゲコウモリ、ニホンカモシカ

(EN) ニホンモモンガ、ノレンコウモリ

(VU) テングコウモリ、コテングコウモリ

(NT) ムササビ、ヤマネ、カヤネズミ、カワネズミ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ

昆虫類：ゴイシツバメシジミ(CR)

### 【選定基準】

A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット

B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット

D 生物地理学上の分布境界域（北限・南限・隔離分布など）にあたる種が生息しているハビタット

E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼池・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット

F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット

H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

### 【概要】

内大臣溪谷は九州中央山地の一角に位置し、緑川水系に含まれる。溪谷の出口は標高約500mで北向きに開き、最奥部は1,739mの国見岳である。溪谷は国見岳から伸びる二つの尾根、溪谷左岸側の京丈山―目丸山、右岸側の高岳―三方山―天主山に囲まれている。標高約1,000m以上には太平洋型ブナ林（スズカケブナ群集）、それ以下には暖帯性植生群に属する針広混交林がまとまって存在している。県内では類のない多くの種の蝶類を産する場所である。また、石灰岩地において特異な植物が見られるなど、希少な野生動植物が生息・生育している。以前は山深く道路も整備されていなかったが、豊富な水資源を利用する電源開発に続き、1960年代の天然林伐採と植林、それに伴う林道整備によって急速に自然林が失われた。しかし、経済構造の変化で林業が衰退すると伐採地や植林地が放置され、成長した二次林も増加している。

### 【現状】

特別天然記念物ニホンカモシカの個体群が安定的にまとまって存在している地域としては、県内最大かつ最良の地域であった。しかし2000年代に入り、ニホンジカ個体群の増大によって森林下層植生が貧弱化し、その影響を受けてニホンカモシカが大幅に減少している。また、コウモリ類は九州では当地域以外には1ヶ所しか生息が確認されていないクロホオヒゲコウモリをはじめ、7種の生息が確認されている。他にもニホンモモンガやヤマネ、カワネズミ、ニホンジネズミ、スミスネズミ、ハタネズミ、さらにニホンザルやニホンノウサギ、アカギツネ、ニホンテン、タヌキ、イノシシなども生息し、県内で最も多様な哺乳類が生息する地域の一つである。また、国内希少野生動植物種に指定されているゴイシツバメシジミの他にも、ウラゴマダラシジミ、オナガシジミ、ヒサマツミドリシジミ、ウラキンシジミ、カラスシジミ、ミヤマカラスシジミ、ホシミスジ、ミスジチョウ、オオムラサキなどの県内の希少な蝶類も多数生息している。カシ類を中心とする原生林では、ゴイシツバメシジミの食草シンランも多い。ゴイシツバメシジミは国の厳重な監視が行われているが、マニアによる成虫の密猟、及び原生林内での幼虫採集、シカの食害による下層植生の消失と乾燥化、自然災害による生息地の消滅等には対策が求められる。

### 3 市房山

球磨郡水上村

熊本県カテゴリー

4 緊急に対策が必要

#### 【 保護対象種 】

鳥類：ホシガラス(AN)、キバシリ(VU)

昆虫類：ゴイシツバメシジミ(CR)

#### 【 選定基準 】

- A 国内において極めて稀な種が生息しているハビタット
- B 県内において極めて稀な種が生息しているハビタット
- D 生物地理学上の分布境界域（北限・南限・隔離分布など）にあたる種が生息しているハビタット
- E 特殊な立地（砂丘・断崖地・塩沼池・湖沼・河川・湿地・高山・石灰岩地・洞窟・干潟・岩礁など）に特有な種が生息しているハビタット
- F 乱獲その他の人為的影響によって、県内で極端に少なくなるおそれのある種を含むハビタット
- H 熊本県版RDB・RLにおいて、絶滅危惧又は準絶滅危惧とされる種を含むハビタット

#### 【 概要 】

市房山は国見岳と共に、ホシガラスやキバシリなどの本州中部以北の高標高地性の鳥類が生息する希少な場所である。また、国内の蝶類でもっとも生息が危ぶまれる国内希少野生動植物種のゴイシツバメシジミを産する貴重な原生林がある。カシ類が多く、ゴイシツバメシジミはカシ類の大木に着生するシシンランを食草としている。ここには他にもヒサマツミドリシジミ、ウラキンシジミ、カラスシジミ、シータテハ、オオムラサキなどの希少な蝶類も生息している。ムネアカセンチコガネなどの食糞性コガネムシも多い。また県内では唯一、ルーミスシジミの記録がある地域で、まだ再発見の可能性も残している。極めて重要なハビタットである。

#### 【 現状 】

かつては、メボソムシクイやコマドリなど高標高地に分布する鳥類も少なからず生息していた。現在では7合目より上は、スズタケの枯死により林床が乾燥化するとともに、風倒木が目立ち、以前とは全く異なる林相になってしまった。その結果、両種とも現在では全く見られなくなった。特に9合目から上はさらに乾燥が進み、特に西斜面のマンサクやシロモジなどからなる風衝低木林は壊滅的な状況で草原化しつつある。

一方、山麓ではゴイシツバメシジミを対象とした監視が行われており、採集に対する危惧はない。しかし、台風などの自然災害での樹木の破損によるシシンランの減少、隣接地の伐採などによる乾燥化には留意しなければならない。乾燥化は、林床の乾燥化と共に高木層の枯死をもたらし、鳥類、昆虫類の生息環境を悪化させている。

### (3) 文献

1. 荒井秋晴・坂田拓司・中園敏之・松下正志・長尾圭祐・本郷文和 (2005) 熊本県における森林性および洞窟性コウモリ類 (I). 熊本野生生物研究会誌, 4 : 1-9.
2. 船越公威 (1975) 大瀬洞及び大瀬のたて穴におけるユビナガコウモリの動態について. 土龍, (5) : 19-20.
3. 船越公威・入江照雄 (1982) 九州におけるユビナガコウモリの個体群動態. 土龍, 10 : 23-34.
4. 入江照雄 (1970) 大瀬, 権現山付近の洞穴に棲む動物について. 土龍, 2 : 13-16.
5. 入江照雄 (2007) 九州の主な洞窟と動物. 続・暗闇に生きる動物たち:6-16. 熊本生物研究所.
6. 熊本県希少野生動植物検討委員会 (1992) 九州中央山地における希少野生動植物の実情と保護方策 [調査報告書]. 熊本県環境公害部環境保全課.
7. 熊本県希少野生動植物検討委員会 (1993) 人吉球磨地域における希少野生動植物の実情と保護方策 [調査報告書]. 熊本県環境公害部環境保全課.
8. 熊本県希少野生動植物検討委員会 (2009) 改訂・熊本県の保護上重要な野生動植物ーレッドデータブックくまもと 2009ー. 熊本県自然保護課.
9. 熊本県希少野生動植物検討委員会 (2014) 熊本県の保護上重要な野生生物リストーレッドリストくまもと 2014ー. 熊本県自然保護課.
10. 熊本野生生物研究会 (編) (2015) くまもとの哺乳類. 東海大学出版部, 303pp.
11. 中園敏之 (1972) 内大臣溪谷における哺乳類の生息状況. 内大臣学術調査報告書 :11-12. 矢部町教育委員会.
12. 大分・熊本・宮崎県教育委員会 (2012) 平成 23・24 年度九州山地カモシカ特別調査報告書 :141.
13. 坂田拓司 (2005) 泉村の哺乳類. 泉村の自然 :61-70.
14. 坂田拓司 (2010) 熊本県におけるコウモリ類に関する生息調査報告 (I). 熊本野生生物研究会誌 6 : 43-49.
15. 坂田拓司・安田雅俊・中園敏之 (2011) 熊本県内の樹上性齧歯類を対象とした巣箱調査と巣箱自動撮影調査. リスとムササビ, 26 : 8-12.
16. 安田雅俊 (2007) 絶滅のおそれのある九州のニホンリス, ニホンモモンガおよびムササビー過去の生息記録と現状および課題ー. 哺乳類科学, 47 : 195-206.
17. 安田雅俊・大野愛子・井上昭夫・坂田拓司 (2012) 熊本県におけるヤマネ *Glirulus japonicus* の分布. 熊本野生生物研究会誌, 7 : 26-28.
18. 安田雅俊・八代田千鶴・栗原智昭 (2015) 自動撮影法による九州におけるカモシカの新たな生息地の確認. 九州森林研究, 68 : 133-134.
19. 八代田千鶴・安田雅俊 (2012) 熊本県内大臣におけるカモシカ *Capricornis crispus* の自動撮影カメラによる生息確認. 熊本野生生物研究会誌, 7 : 37-39.
20. 吉倉眞 (1988) 熊本の陸生哺乳動物 (2) 分布と実態. 土龍, 13 : 100-117.